

2015. 3. 9 記者会見での発言要旨

あのフクシマ原発事故からあさってで丸4年になります。避難されている被災者は、まだ、12万人もいるといいます。先日の報道では、福島第一原発の周辺4町（浪江、双葉、大熊、富岡）で、ふるさとに戻りたいと考える世帯は、今では、1～2割だということが復興庁の調べでわかったといいます。もう、戻れないと考えている方がほとんどだということです。ふるさととは完全に失われてしまったと言えるのではないのでしょうか。

私達は、浜岡原発では、避難計画が策定できないから再稼働は認められないという主張をしています。今回提出した準備書面で、そこを詳細に述べました。地震と津波で原発に重大な事故が起きた時には、自身と津波で周辺道路は寸断されていて、避難するどころではありません。そのことを、静岡県も十分承知しているからこそ、未だに避難計画を策定できないのです。

また、仮に、一時的に避難できたとしても、福島第一原発事故の4年後の姿をみれば明らかなおり、原発震災がおきてしまえば、戻ることはほとんど不可能な状態になっているだろうということが容易に想像できます。それこそが国富の喪失です。国土の喪失です。そんなことが起きないようにしなければなりません。

やはり、浜岡原発は、このまま廃炉にするしかありません。

また、私たちは、今回、H断層系についての主張を整理しました。中部電力は、H断層系について、約8万年前以降は活動がないと主張していますが、近くの断層との関連からして、せいぜい1万年前以降の活動歴がないと言えるに過ぎないと私たちは考えます。従って、約12～13万年前以降の活動が否定できない活断層の上には原発は建てられないという新規制基準からすれば、浜岡は、やはり廃炉しかないのです。

私達は、中部電力が造っている防波堤が、想定すべき津波の大きさからして、到底、耐えられないと考えています。中部電力は、今回提出した準備書面で、この防波堤で十分だということを述べています。これについては、まだ、読みこめていませんので、よく読んで、然るべき反論をしたいと考えます。

さて、1月の会見でお知らせしました河合弘之弁護士が監督して製作してくれた映画「日本と原発」の上映会ですが、私達が主催するのではなく、市民団体の「浜岡原発を考える静岡ネットワーク（浜ネット）」が主催して開かれることとなりました。3月6日から始まっています。各地で上映中ですので、お近くの会場をご覧ください。詳細は、浜ネット 054-271-7302 までお問い合わせください。